

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

宮城県 高鍋町

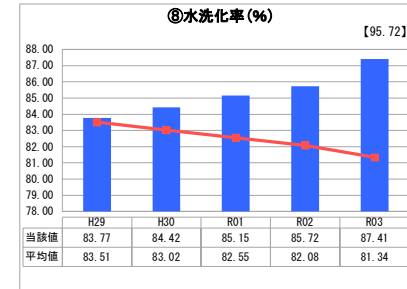
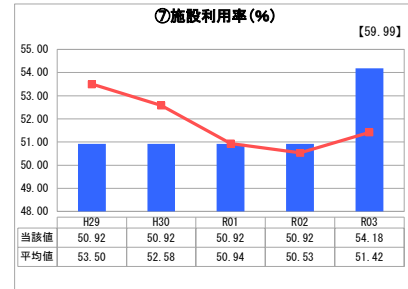
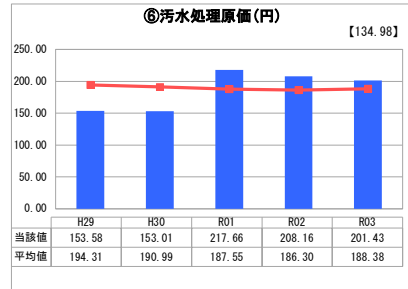
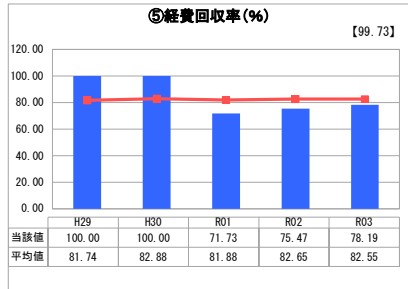
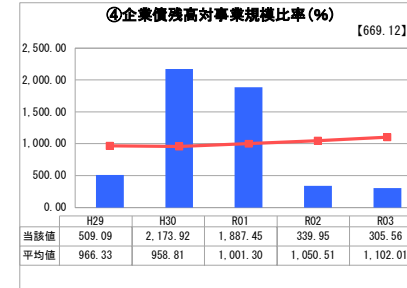
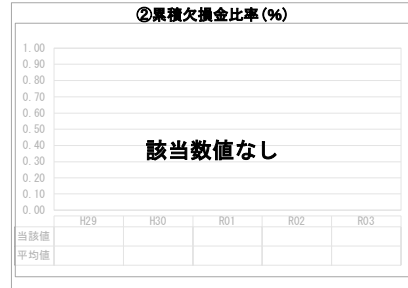
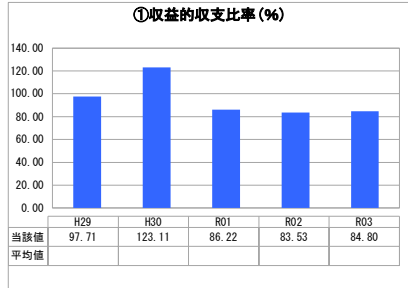
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	36.31	93.56	2,552

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
19,978	43.80	456.12
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
7,199	2.26	3,185.40

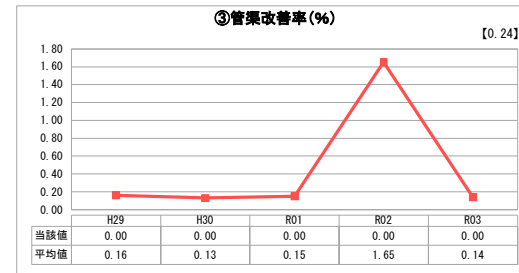
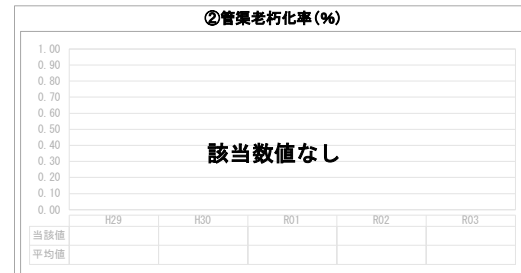
**グラフ凡例**

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

当町は、認可区域内の主要管渠敷設をほぼ終わっており、現在は管渠及び高鍋浄化センターの維持管理に軸足を置いている。

収益的収支比率は、使用料収入は増加しているが企業債の償還が令和3年度にピークを迎えたため、横ばい状態が続いている。単年度収支は赤字なので黒字化に向けてさらなる経営改善が必要である。なお平成30年度までの数値は、高鍋浄化センターの長寿命化工事に伴う国庫補助収入および大規模企業進出に伴う工事負担金収入によるものであり、一時的な要因に左右されないよう経営基盤の強化に努める。

経費回収率も100%を下回っており、汚水処理費を使用料収入のみで賄えず一般会計からの繰入金等に依存した状態が続いている。

汚水処理原価は、水洗化率の増加に伴い減少傾向にある。今後も水洗化率及び下水道接続率の向上を進めるとともに汚水処理費の圧縮に努めていく。

### 2. 老朽化の状況について

平成8年の一部供用開始から27年が経過。管渠については法定耐用年数(50年)に達していないため早急な老朽化対策が必要な状況ではないが、ストックマネジメント計画に基づき、計画的かつ効率的な維持管理及び改築更新を行う。

### 全体総括

収益的収支比率は横ばいではあるが、数値の一部は改善傾向もみられる。しかしながら一般会計からの繰入金に依存している状況には変化がないため、有収水量の向上及び汚水処理費の圧縮等、さらなる経営改善に取り組み一般会計への依存度の減少に努める。

また令和5年度から公営企業会計に移行するため、平成29年11月に策定した「高鍋町下水道事業経営戦略」は見直しを行う予定。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。